



小学校の学びの成果は6年生の姿

帝京大学小学校 校長 石井卓之

本年度の授業見学会から見学時間を2時間に増やし、本校入学を検討する方により多くの授業を見ていただくとともに、校長の学校経営について説明の時間を取るように等々力教頭に依頼しました。また、校長の時間の中で、6年生の代表児童が本校で学んだICTの力を駆使して、学校の魅力を来校した方に説明をしてもらおうと考えました。代表は児童会に依頼し、担当の秋元教諭には、「教師が指導し過ぎて『やらせ』になるのではなく、子どもたちのアイデアや母校愛に委ねながら、来校者に思いが伝わるようにiPadで動画を撮影してプレゼンテーションを作成してほしい。」と頼みました。

児童会の、守田さん、外松さん、横川さんの3名で取り組むこととなりました。最初に私から3名の児童に、授業見学会のもつ本校の広報としての重要な位置づけについて話をしました。また、来校者に対して校長が長々話すよりも、帝京小の特色ある教育で学んだ結果である6年生が、自分らしさを発揮して「帝京小のよさを発信してほしい」と伝えました。

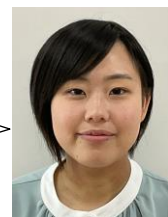
その後1度、子どもたちが作成したプレゼン資料や動画を見せてもらいました。資料と動画の説明の重複が多いこと、カメラを下に置いての撮影はアングルがよくないことなどを話しました。その後は当日まで、私は関わりませんでした。当日は、ブレイクタイムにランチルームで発表を行いました。やや緊張した面持ちでしたが、しっかりと本校のよさについて、子どもたち目線でアピールしてくれました。「先生はやさしく、休み時間にも遊んでくれます。」というセールスポイントは、私では思いつかない内容です。また、映像が乱れ音声欠けの部分がありましたが、動揺することなく、その場でしっかりと説明を付け加えるなど、臨機応変に対応することができていました。大人でも難しい状況にしっかりと対応できていて、感心しました。

5年生の日光セカンドスクールの引率から帰って来たとき、職員室の校長机の上に、1通の手紙が置いてありました。それは授業見学会に参加した方からのものでした。その中に、「児童会の6年生によるプレゼンテーションでは、見る側が楽しめるように動画の撮影から編集まで仲間とともに作成したものは、とても分かりやすく、初めて会う大人の前で緊張しながらも堂々と発表される子どもの姿は大変素晴らしかったです。また、子どもが他者へ自分の学校の魅力を伝えたいという気持ちが伝わり、感動するとともに、その魅力を見学会で感じさせて頂くことができました。」という文書がありました。6年生の活躍を認めていただき、とてもうれしくなりました。その文書をコピーして3人に手渡ししながら、お礼を述べました。子どもの学びの発揮とそれが認められたこと、最高の出来事でした。



今年度着任した先生の紹介

6年生の社会科と探究科を担当します。子どもたちの疑問に向き合い、一緒に授業をつくっていきたいと思います。子どもたちの学びが広がっていくように精進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



《教諭 白石 紬女》



1年生と3年生の体育を担当します。運動が苦手な子どもたちも体育を通して運動することを好きになれるように楽しくメリハリのある授業を作っていきます。自身も子どもと一緒に成長していきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

《教諭 長谷川 桃香》